

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

—

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

(2) 調査期間

令和8年2月～令和8年5月（※一部の品目については、令和8年2月～令和8年4月）

(3) 調査結果

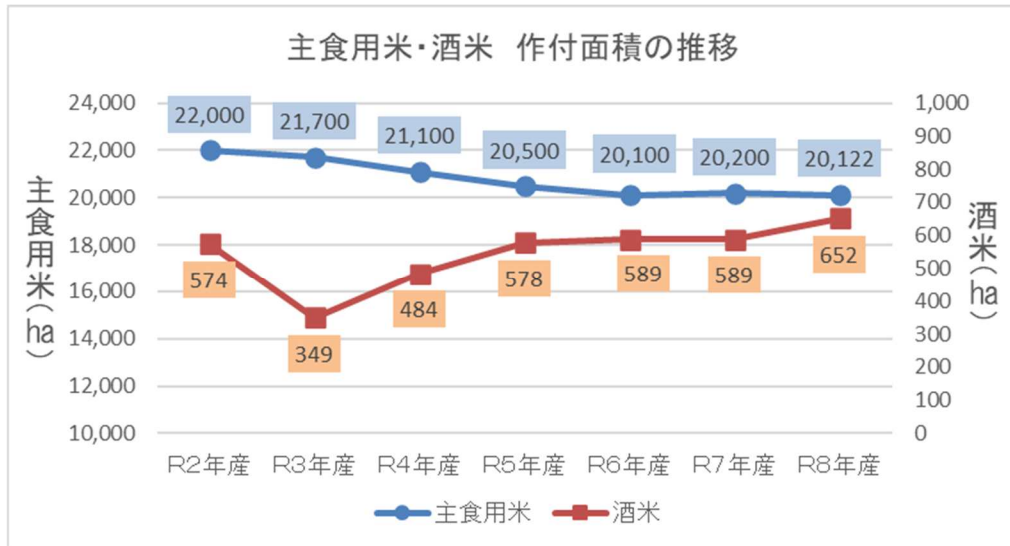
ア 農産物

(ア) 水稻の生産状況

4月末現在の主食用米の作付面積は、前年の実績より約80ha減少して20,122haと見込んでいる。

また、令和3年産まで需要が減少していた酒造好適米（酒米）の作付面積は、令和4年産から回復に転じており、令和8年産は前年産から約60ha増の652haと見込まれている。

5月末現在、田植えは前年と同程度の8割が終了しており、生育は概ね順調である。



(イ) 野菜の生産状況

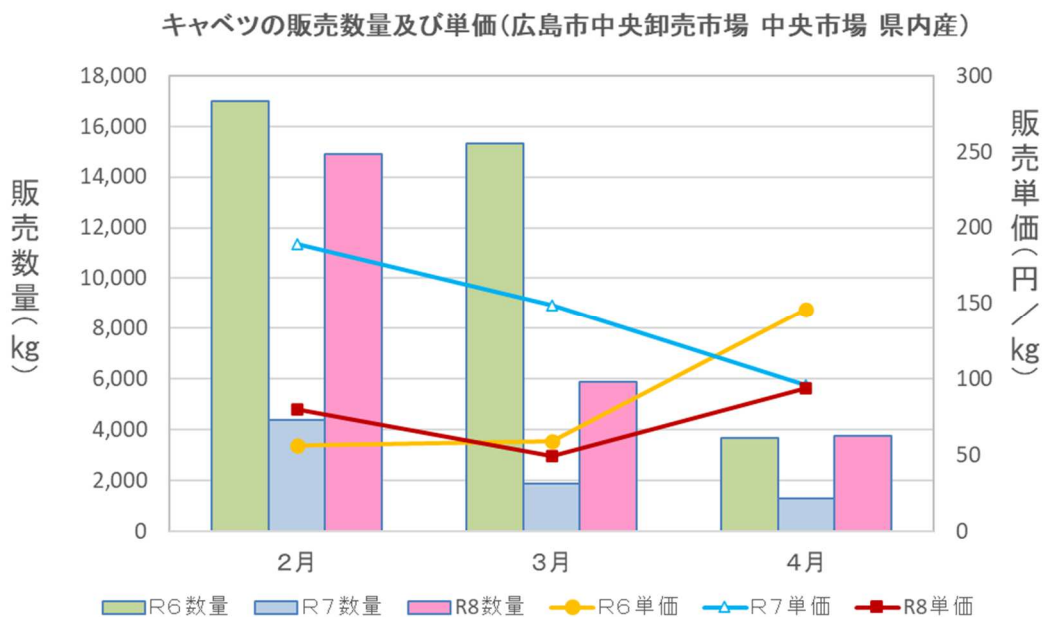
2月～4月は平年より気温が高く推移し、全般的に生産量・入荷量は平年並みかやや減少し、単価は平年並みで推移した。

a キャベツ

主に尾道市因島や江田島市等の県南部で生産されたものが流通している。

販売数量は、2～4月は昨年の約3倍に増えたものの、平年比 41～93%で推移した。

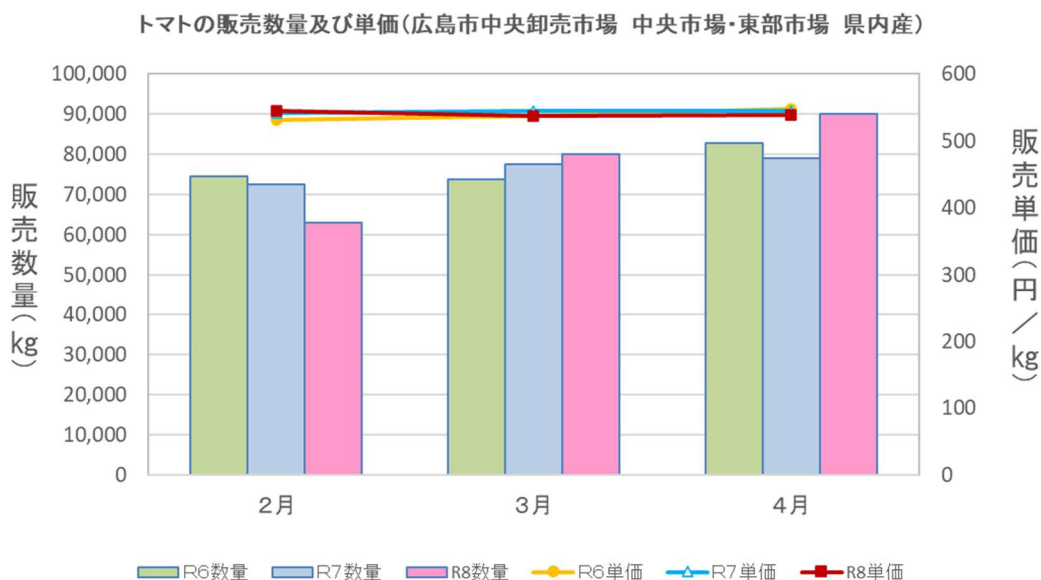
販売単価は他県産の動向に影響を受け、平年比 74～117%で推移した。



b トマト

冬春トマトは、呉市等の県南部で生産され、7月初旬頃まで出荷が予定されている。

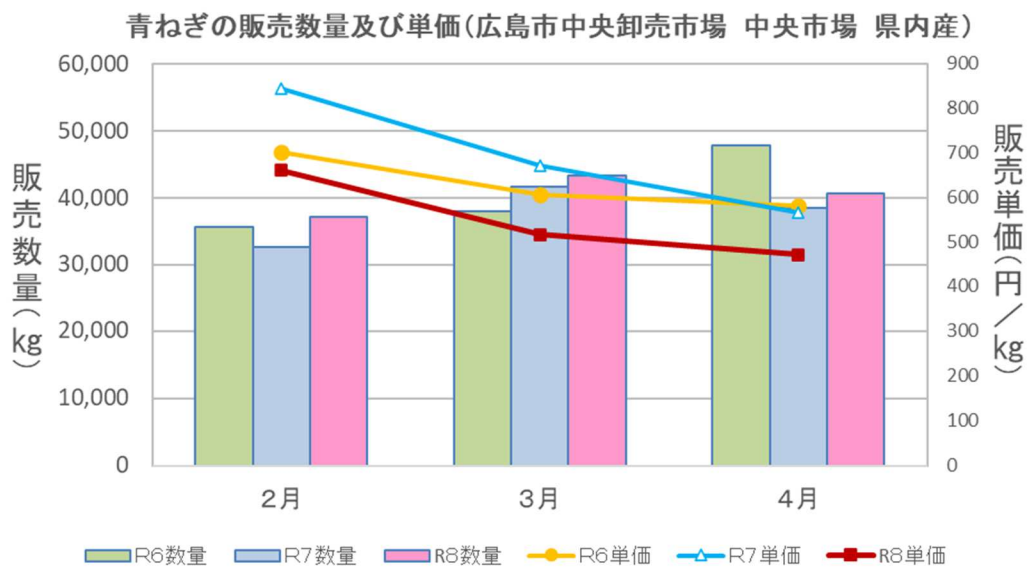
販売数量は平年比 90～101%で、販売単価は平年比 99～100%で推移した。



c 青ねぎ

安芸高田市等で生産されたものが周年流通している。

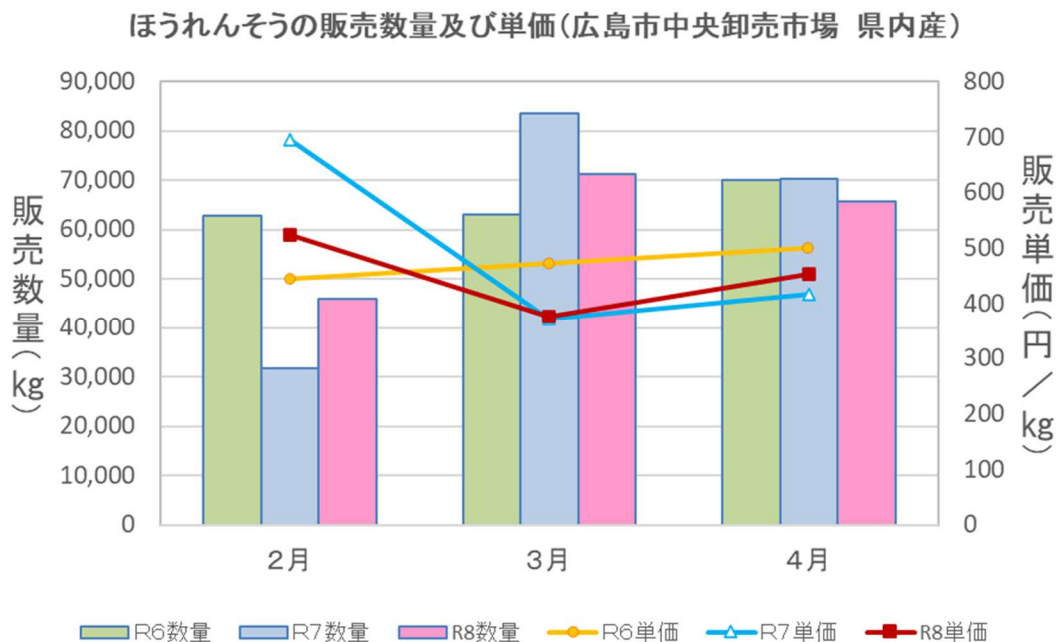
販売数量は平年比 91～103%で推移した。販売単価は、平年比 91～97%で推移した。



d ほうれんそう

主に広島市、庄原市で生産されたものが流通している。

販売数量は平年比約 80～85%で推移した。販売単価は、平年比 99～107%で推移した。

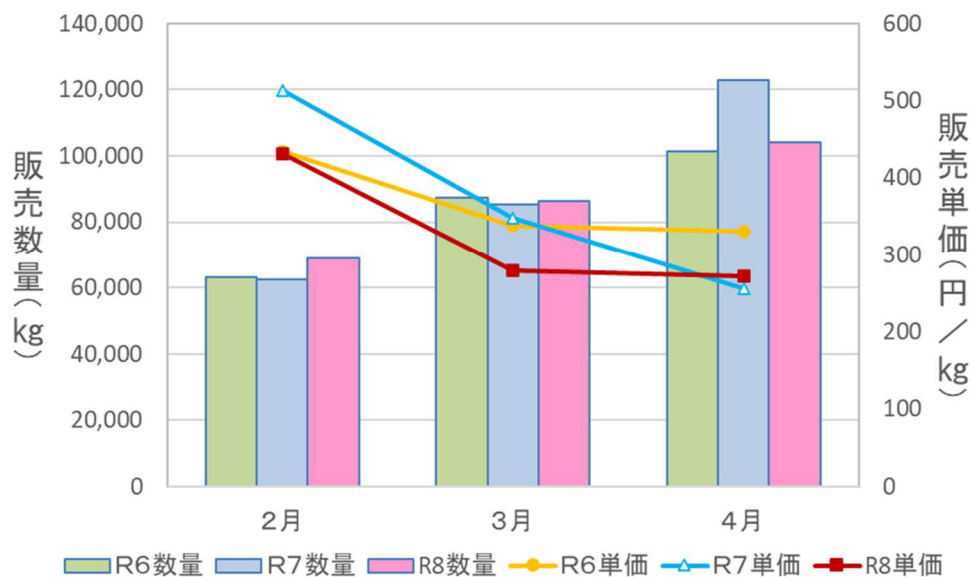


e こまつな

主に広島市、安芸太田町で生産されたものが流通している。

販売数量は平年比 100~110%で推移した。販売単価は、3月までは平年比 88~89%で推移したが、4月に持ち直し平年比 98%となった。

こまつなの販売数量及び単価(広島市中央卸売市場 県内産)

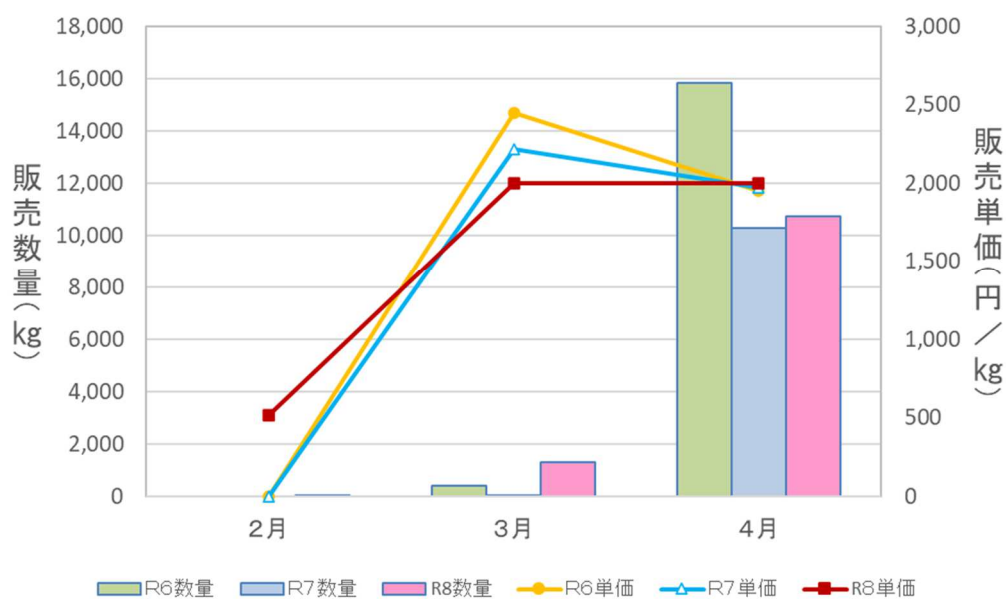


f アスパラガス

主に三次市や世羅町で生産されたものが流通している。

販売数量は、3月は平年比 96%、4月は平年比 72%で推移した。販売単価は、3月は平年比 109%、4月は平年比 112%で推移した。

アスパラガスの販売数量及び単価(広島市中央卸売市場 中央市場 県内産)

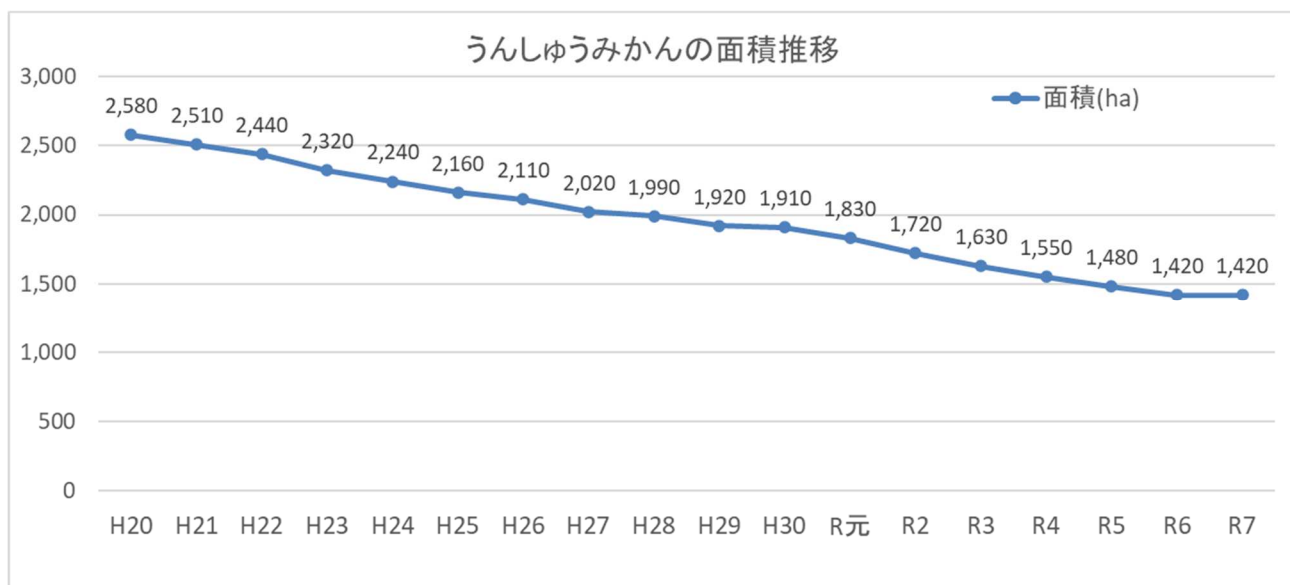


(ウ) 果樹の生産状況

一昨年、発生被害が多かったカメムシ類の越冬量が平年に比べて多い。今後の気温上昇に伴って飛来が増加する可能性もあり、ほ場の定期的な巡回などを心掛ける必要がある。

a うんしゅうみかん

面積は年々減少しており、前年と同じ、1,420ha で栽培されている。



生育は、昨年より3～5日程度早くなっている。

令和8年産は裏年に当たり、生産量は前年より減少して10,919tと見込まれる。

本県産うんしゅうみかんの予想生産量

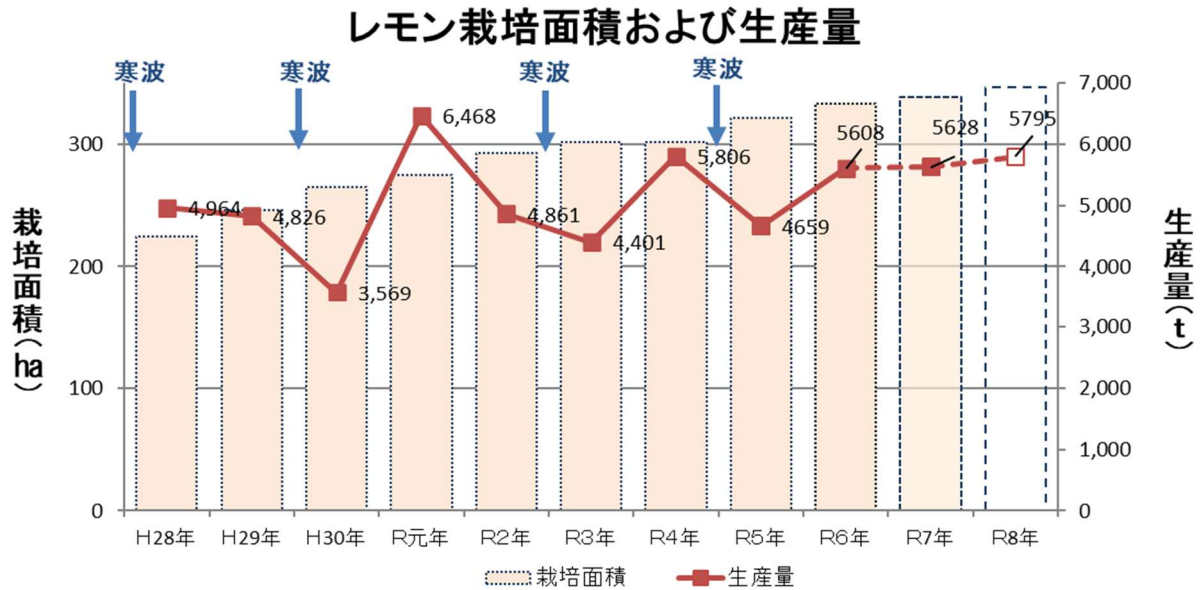
区分	生産量			対比		
	令和8年産 予想(t)	令和7年産 実績(t)	令和6年産 実績(t)	R8/R7 (%)	R8/R6 (%)	
うんしゅうみかん	極早生	2,860	3,450	2,910	83%	98%
	早生	3,865	6,390	3,950	60%	98%
	普通	4,194	5,300	4,230	79%	99%
	合計	10,919	15,100	11,090	72%	98%

※令和7年・令和6年産実績は「作物統計」(農林水産省)。

令和8年産予想は、JA広島果実連調べ(開花・発芽状況調査から推計)。

b レモン

令和7年産の生産量は、前年同様の5,628tとなる見込みである。



※令和6年産までの数値は、「特産果樹生産動態等調査（農林水産省）」の数値。
令和7年産の数値は、JA広島果実連調べ（速報値）。

c レモン以外の主要な中晩柑類

令和7年産の生産量は、平年より多かったため、販売単価は令和6年産比64～76%で取引された。

令和7年産 広島県産主要中晩柑類の生産・販売状況

品目	生産量			販売単価		
	令和7年 (t)	令和6年比 (%)	令和5年比 (%)	令和7年 (円/kg)	令和6年比 (%)	令和5年比 (%)
ネーブルオレンジ	1,169	76	97	291	76	91
はっさく	4,537	125	129	234	70	93
しらぬい	2,944	133	159	278	64	75
はるみ	1,264	110	141	345	72	83

※JA広島果実連調べ（令和8年5月時点）。

d ぶどう

面積はやや増加し、288haとなっている。

生育は3日程度早まっており、尾道市産のデラウェアは、昨年より9日早く、5月23日から出荷が始まっている。

e なし・りんご

面積は概ね現状維持で、なしは138ha、りんごは89haである。

開花日は、なしは平年より3～5日早く、りんごは平年より3～4日早くなった。

凍霜害の影響はないが、世羅では黒星病の発生が散見され、5月の着果量を基にした作柄は、なしはやや少ない、りんごは平年並みと見込まれる。

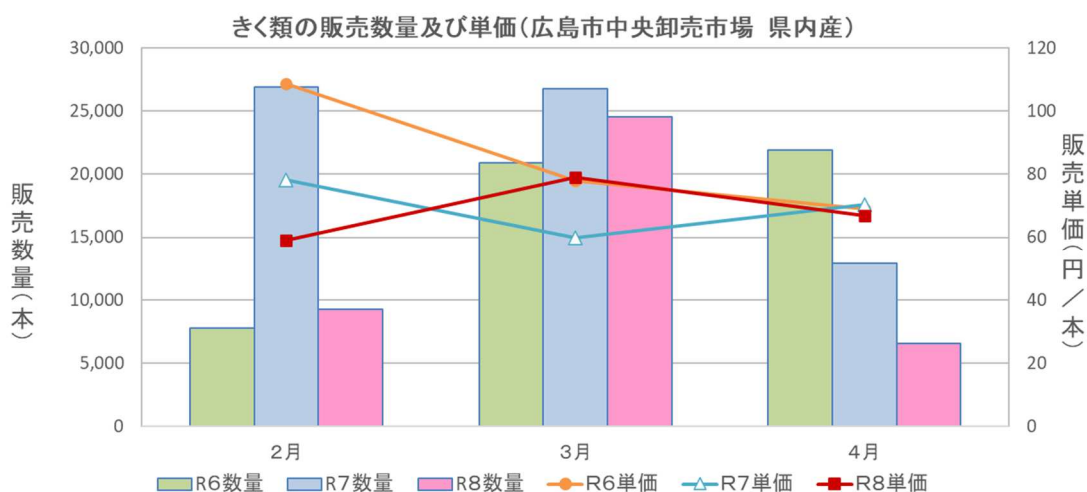
(I) 花きの生産状況

切花全般においては、全体の出荷量は平年比 71～86%で推移した。昨年は、全国的に数量減少単価安であり、物価上昇の影響で嗜好品である花の消費が鈍化していることが、年明けからの切花の消費に影響した。販売単価は平年比 94～96%で推移した。

a きく

江田島市を中心とした県南部から出荷されている。

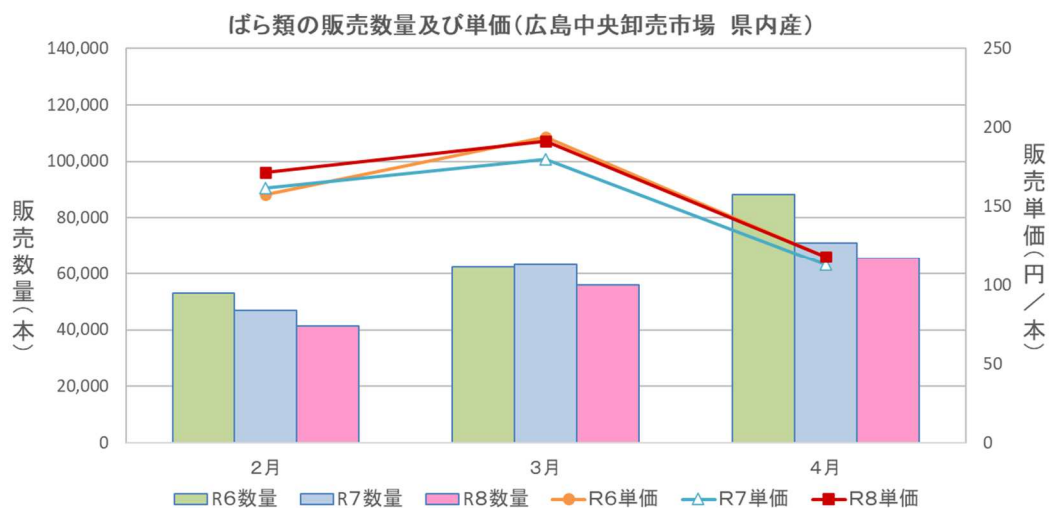
販売数量は、平年比 15～75%で推移した。販売単価は、平年比 78～123%で推移した。



b ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷されている。

販売数量は平年比 69～80%で推移した。販売単価は平年比 100～109%で推移した。

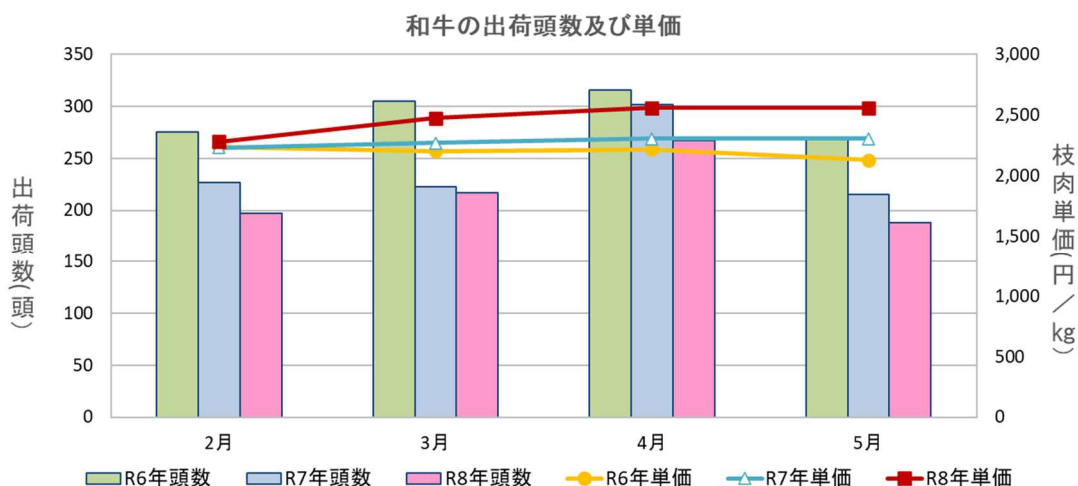


イ 畜産物

(7) 和牛

出荷頭数は、前年をやや下回って推移している（前年比 87～97%）。

枝肉単価は、出荷頭数が少なかった影響等により和牛肉の引き合いが強くなったことから、前年を上回って推移している（前年比 102～111%）。



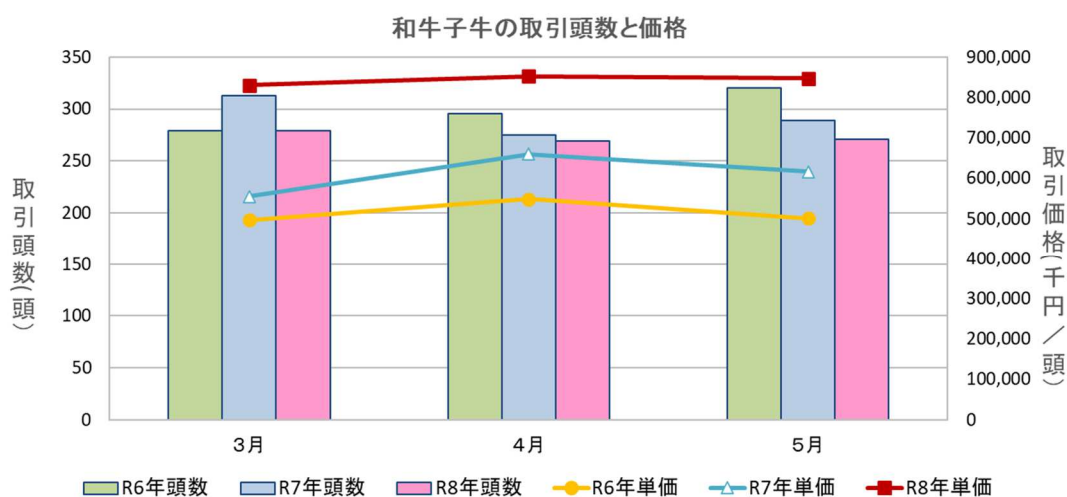
※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。

出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A4でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、前年をやや下回って推移している（前年比 89～98%）。

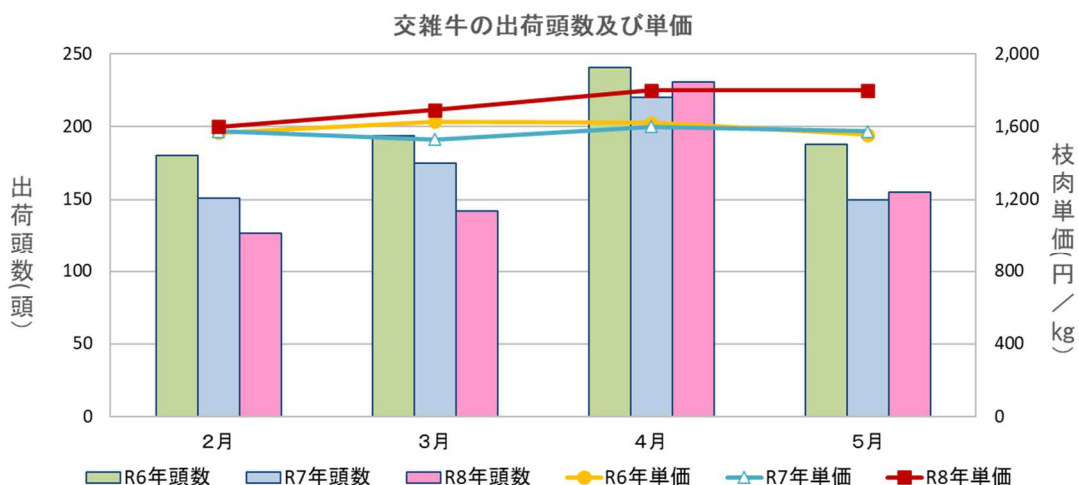
取引単価は、全国的な子牛の供給不足や枝肉価格の上昇等により、前年を大きく上回って推移している（前年比 129～150%）。



※「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

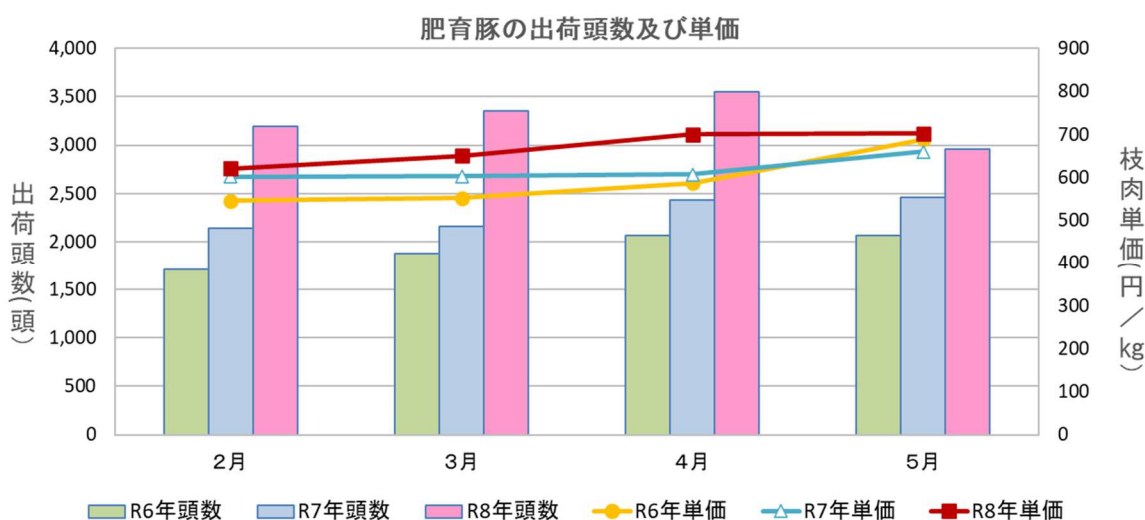
出荷頭数は、月により変動はあるが、前年を下回って推移している（前年比 81～105%）。
 枝肉単価は、高価な和牛肉からの代替需要や出荷頭数が少なかった影響等により、前年をやや上回って推移している（前年比 102～114%）。



※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢B3でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 豚

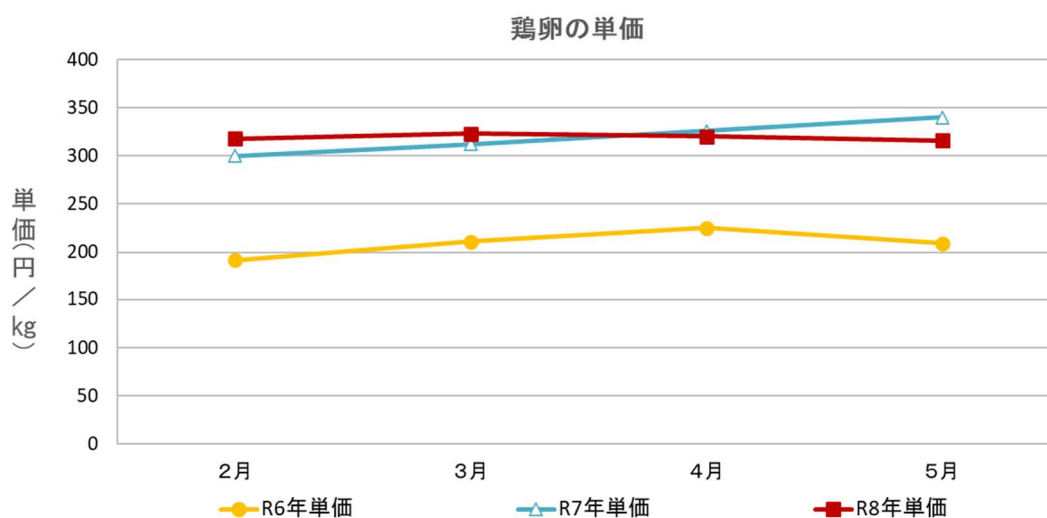
出荷頭数は、県外からの出荷頭数が増えたことから、引き続き前年を上回って推移している。
 枝肉単価は、前年よりやや高値で推移している。



※「広島市中央卸売市場食肉市場」への出荷頭数
 ※「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

鶏卵の単価は、前年並みの高い水準で推移している。

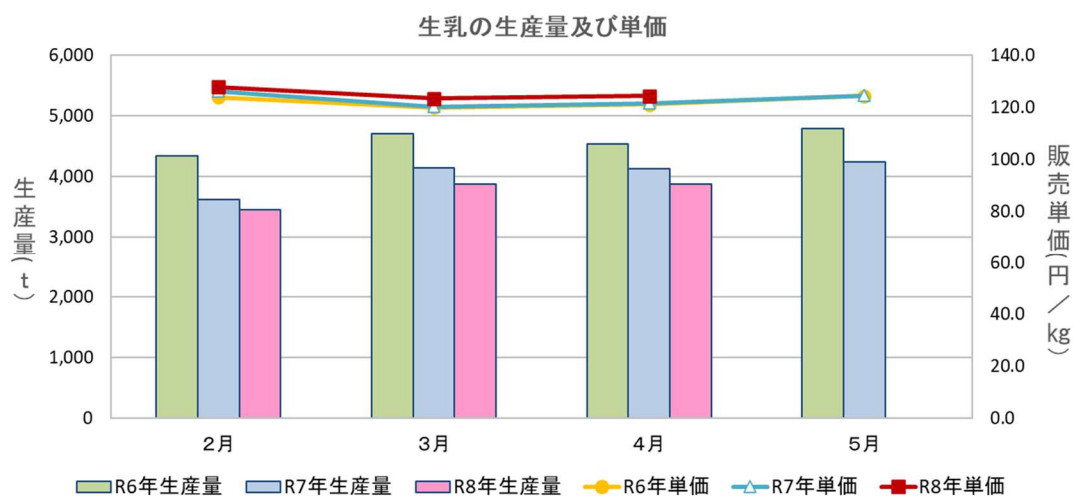


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(カ) 酪農

生乳生産量は、前年をやや下回って推移している（前年比 94～95%）。

生乳の販売単価は、前年並みで推移している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合聞取りで手取り乳価。

(キ) 飼料等価格

配合飼料の価格は、円安等の影響により、依然として高値が続いている。

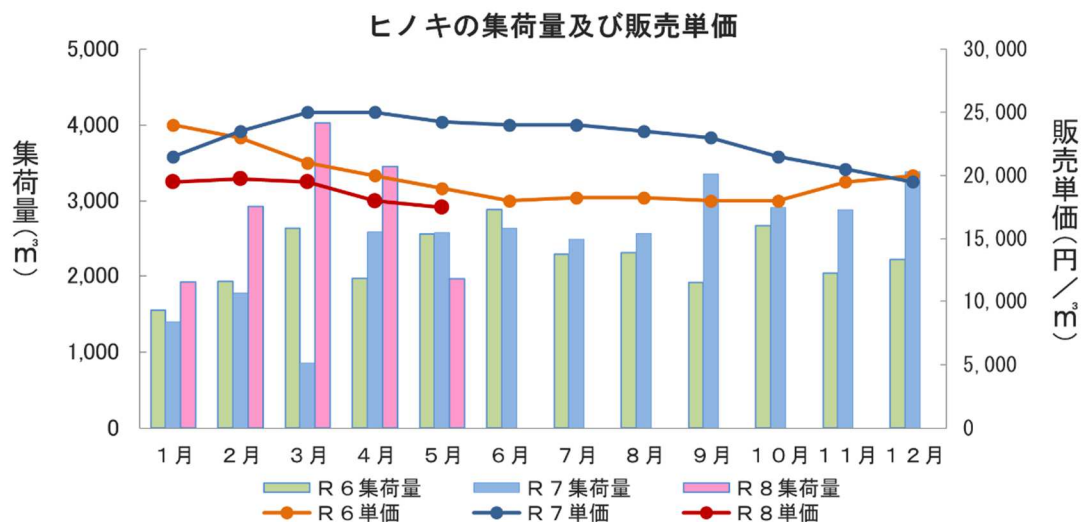
粗飼料の価格についても、依然として高い水準で推移している。

ウ 林産物

木材の生産状況

ヒノキの集荷量は、冬場の積雪が少なかったことから木材生産が順調に進み、前年同期を大きく上回る水準となっている。（1月～5月の累計集荷量：前年同期比約55%増）

販売単価は、集荷量が増加したことに加え、住宅着工の低迷により需要が減退し、合板工場等の調達意欲が低下した影響を受け、前年同期を下回り推移している。



※広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの集荷量及び販売単価

エ 水産物

(7) 水温

6月上旬の県内海域32点の表層水温は18.1～24.6℃で、平年差は+0.5～+4.1℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
6月上旬の水温	22.2～24.6℃	18.1～20.4℃	19.7～21.4℃
平年差	+1.9～+4.1℃	+1.1～+2.1℃	+0.5～+1.3℃

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物17品目の取扱数量は、マダイ、クロダイ、キジハタ、マアジで平年を上回った。一方で、残る13品目では平年を下回った。

b 取扱単価

県内産の取扱単価については、17品目中12品目で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和8年4月）

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	70,819	105	100	798	96	105	32,185	114	109	730	91	105
スズキ	8,591	40	43	867	132	156	4,362	71	60	857	116	153
カワハギ	9,101	67	38	1,334	137	173	4,547	85	60	1,688	112	150
タコ	11,500	127	92	2,295	100	128	3,994	133	79	2,346	90	121
クロダイ	17,461	150	97	402	100	126	16,590	159	111	402	97	123
コウイカ	3,594	205	42	1,369	101	158	1,176	169	56	1,291	80	126
アナゴ	21,658	93	78	2,002	77	104	1,678	83	75	798	64	70
シタビラメ	1,891	81	74	1,394	106	133	1,014	81	79	1,435	106	132
サヨリ	7,117	144	46	852	85	101	6,714	147	53	791	81	97
ヒラメ	7,753	107	87	2,003	94	113	2,332	122	97	1,575	87	99
サワラ	13,133	57	67	1,956	168	158	2,326	128	43	1,750	137	152
サゴシ	936	34	7	1,443	152	194	168	183	49	1,106	133	122
キジハタ	1,589	299	250	1,583	64	69	1,266	294	263	1,584	68	69
カサゴ	1,425	96	64	968	99	116	606	86	58	944	99	106
オコゼ	1,017	120	32	3,133	99	172	379	117	21	3,102	116	182
メバル	4,407	69	36	1,780	103	138	1,071	74	38	2,006	107	145
マアジ	83,762	115	87	538	87	114	4,484	325	738	903	95	68

※ 平年値は平成27年～令和7年の平均

※ 県内産取扱数量 平年比50%以上増 単価 平年比20%以上増

※ 県内産取扱数量 平年比50%以上減 単価 平年比20%以上減

(ウ) 養殖状況

かき養殖

令和7年度漁期（令和7年10月～8年5月）のかき養殖は、近年の成育の遅れや、かき殻排出抑制の点から、例年より3週間遅れの10月20日から始まった。

かきの生育状況については、梅雨時期の降雨不足や高水温等の複合的ストレスに長期に晒されたことにより、例年よりも深刻なへい死が発生し、生き残ったかきも生育の遅れがみられたが、年末の冷え込み以降、身入りは徐々に回復し、漁期を通じた生育は平年比103%となった。

むき身かきの出荷については、へい死の影響と生育の遅れにより年内シーズンは出荷が大きく落ち込む状況となり、身入りの回復とともに出荷も徐々に増えたが、全体としては例年を大きく下回る見込みである。

単価については、へい死の影響により出荷量が少ないため、シーズンを通して高値で推移し、平年比149%の1,180円/kgとなった。

広島県かき成育状況調査結果

区 分	平均むき身重量 (g/個)	平均単価 (円/kg)
令和7年度 (平年比)	16.4 (103%)	1,180 (149%)
平 年	15.9	790

※平年値は平成27年～令和6年の平均

